

動画を活用したブドウ摘粒技術の「見える化」

ブドウ栽培では、技術力の求められる作業が多く、経験の浅い生産者の技術習得に時間を要していた。そこで、動画を活用し「見える化」を図ることで、早期の技術習得の支援をした。動画内に、字幕を付けたり、作業で重要となるポイントを強調することで理解しやすくなる工夫をした。

取組の背景

北播磨地域では、ブドウ栽培が盛んであり、県内最大の栽培面積である。ブドウ栽培は、芽かきや花穂整形など技術力の求められる作業が多く、中でも摘粒は、ブドウの重量や見た目、品質に関わる作業であり、高い技術力が必要とされる。しかし、従来の紙資料では、作業動作のイメージがつかみにくいため、経験の浅い生産者は技術の習得に時間がかかる。そこで、早期の技術習得を図る方法として動画による管理作業の「見える化」に取り組んだ。

取組状況

動画の撮影対象は、産地を牽引する技術力の高い生産者を選定した。撮影の際には、摘粒方法や注意点等のコメントを録音した。動画編集時には、字幕化や管理作業のポイントとなる技術を強調した（写真1）。また、摘粒前と後、収穫時の変化を画像として示すことで分かりやすい動画となるように工夫した（写真2）。さらに、動画は2分

程度と短時間に要点をまとめ見やすくした。

動画を見た生産者からは、「自分の作業を客観的に見ることができた」や「他の人の作業を見ることができ、参考になった」等の意見を頂いた。

今後の方針と課題

今後は、摘粒技術だけでなく、芽かきや誘引、花穂整形等の栽培作業全般についても「見える化」し、早期に技術習得が進むようにしたい。また、他の品目でも活用し、新規栽培者の速やかな技術習得につなげていきたい。

課題として、生産者の技術を動画にしているため、動画を公開する方法（YouTube等SNS）に配慮が必要である。今回は、Googleフォトを活用し、生産者のみの限定公開とした。また、生産者の技術を撮影する場合は、モデルの一つとして紹介する程度にとどめる必要があると考える。

小倉 優樹（前加西農業改良普及センター）
（現丹波農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0795-73-3806）



写真1 摘粒の動画



写真2 摘粒前後及び収穫時との比較

ひょうごの農林水産技術 No.218 (2022.8) ※本内容は、当センターホームページにも掲載

令和4年8月25日

兵庫県立農林水産技術総合センター (0790) 47-2408